



以下のリンク先からそれぞれの図をチェックしてみてください。

▼(模式図)H1~H4足のトレンドが揃う時は伸びやすい▼

[https://kuro-gaki.com/muhai\\_saisoku/others/2022-04-19\\_02.png](https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/2022-04-19_02.png)

▼(チャート)事例: GBPAUD H1 / H4足▼

[https://kuro-gaki.com/muhai\\_saisoku/others/2022-04-19\\_01.png](https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/2022-04-19_01.png)

今回例示したチャートは、分かりやすく空間が広く認識できるポイントを選びましたが

このような環境を見つけたら、後は短期足のセットアップ(MA収縮+③波認識)を併用して

エントリー・利確・損切り位置を決めるだけです。

このように、ダウ理論軸でトレンドを把握する事によって、自分のトレードに対し一定の『基準』による方向性を示すことが出来ます。

結局、トレンドを見ているだけではなく、それに伴って生じる『トレードするのに有利な空間』を探す際にも

ダウ理論は非常に有用なテクニカルであることが分かって頂けたのではないのでしょうか。

ただ「アップトレンドだからロング、ダウトレンドだからショート」ではなく

そのトレンドが発生したことによって生じた背景(広い空間が出来た事実、など)を把握します。

これがスイングトレードならば、H4~日足に繰り上げてトレンド判断、といったアレンジをするわけですね。(その分置くべくストップ幅が大きくなるのはリスク要因)

余談ですが、僕も日足以上のチャート環境はトレードする際に必ずチェックしますが

『邪魔なラインの存在』を確認するくらいで、あまりトレンドの方向そのものは重視していません。

何故かという、僕の短期デイトレの規模であれば、日足以上のトレンドがどっちを向いていたとしても

トレードの目線自体にはあまり大きな影響が無いからです。

この辺は、狙う波の規模によって変わってきますので、僕の考えだけが絶対唯一の基準ではない点は、注意してください。

久しぶりにゴリゴリのテクニカルの話だったので、難しい部分もあったかもしれませんが

何か気になる事や疑問点があったら、気軽にメールへの返信で質問を送ってくださいね。